

弥次さん喜多さんの道

古市参宮街道 ガイドマップ

発行：修道まちづくり会
<http://www.shudo.biz>
 E-mail: shudo@amigo.ne.jp

0 100 200m

♀: バス停



外宮と内宮を結ぶ最古の街道

江戸時代には妓楼や芝居小屋などが立ち並びお伊勢参りの人々で賑わい、「東海道中膝栗毛」で有名な弥次さん喜多さんも歩いた。現在でも麻吉旅館をはじめ伊勢の特徴的な街並みである妻入り家屋や名所・旧跡もかなり残っている。おかげ参りの昔をしのいで歩くのもいい。外宮からは間の山で上り、平坦な長峰を経て、牛谷坂で下ることになる。車道を歩くので車には注意する。

⑨ 大林寺

浄土宗西山禅林派の古刹である。歌舞伎で有名な「伊勢音頭恋寝刃（こいのねたば）」のモデルである、油屋「おこん」と「孫福齋（いつき）」の墓、比翼塚があり、参拝に詣出る人も多い。「おこん」の墓は坂東彦三郎、「孫福齋」の墓は実川延若が建てた。
 ※トイレはありません

⑪ 長峯神社

祭神は猿女の祖といわれている天鈿女命（あめのうずめのみこと）である。芸能の神様ともいわれ歌舞伎役者なども参拝に訪れている。

⑫ 麻吉旅館

1851年創業とある由緒ある旅館で昔の姿を今に伝え、現在も営業中。崖山に建てられ5層6階の建築になっている。有名人が多数宿泊し、色紙や額が掲げられている。

⑬ 寂照寺

家康の孫「千姫」の菩提を弔うため1677年建立。1774年知恩院から月僊上人が住職として晋山し、絵を売り寺の再建・貧民救済に尽力。遺品などは非公開。毎年11月に月僊展あり。

⑯ 桜木地蔵

出世地蔵として知られている。江戸時代に大岡越前守忠相が山田奉行の時にお参りし、徳川吉宗に見出されて江戸南町奉行に出世した。また、三重ノ海や武蔵丸が毎年、参拝して横綱になった。トイレあり。





① 妙見堂跡

昔、岡崎宮とって度会氏の祖を祀った社であったという。859年大内人高主の女が勢田川に溺れ死んだのを探していたところ、川底から童形の妙見像を見つけ、ここに安置した。

現在、妙見像はここに安置されていない。

② 虎尾山

日露戦争の戦勝記念の塔がある。アニメ・映画『半分の月がのぼる空』の舞台となった地。



③ 寿巖院

(じゅがんいん)

隠岡山寿巖院と号し、浄土宗鎮西派知恩院の嫡末寺である。1615年、寿巖上人の開基。

本尊は黒阿弥陀で、全身に黒衣をまとった立像である。境内に江戸中期の俳人三浦栲良の句碑がある。「わが庵は榎ばかりのおちば哉」

④ 旅館藤屋跡

十返舎一九の小説『東海道中膝栗毛』の弥次さん喜多さんが泊った宿屋。



⑤ お杉お玉の碑

江戸時代、間の山(尾部坂)の途中に多くの女芸人がいた。中でもお杉お玉は、三味線に合わせて唄い、参宮人の投銭をうまくかわして評判になった。

⑥ 備前屋跡

古市の妓楼の代表格で牛車楼ともいった。伊勢音頭を始めた歴史が最も古く、踊り舞台の迫り上げ式を考案したのも5代目である。

志賀直哉の『暗夜行路』の主人公が伊勢参りの時、ここで伊勢音頭を観たと書かれている。

⑦ 古市芝居跡

古市には古市三座(口の芝居・中の芝居・奥の芝居)といわれる芝居小屋があったが、現在は永田屋前の「古市芝居跡」の碑が建っているのみで、ここが口の芝居・長盛座跡である。長盛座は「千両役者が常時来演できるような立派な小屋を」ということで、明治22年に建設された。関西演劇界の雄、初代中村鴈治郎を初め、片岡仁左衛門、松本幸四郎ら数々の東西名優が来演した。

奥の芝居は麻吉旅館の街道沿いにあった。中の芝居は場所が不明である。

⑧ 古市

江戸初期までは人家がなかったが、参宮客で賑わうようになり精進落しの場で有名になる。「伊勢参り大神宮へもちょっと寄り」の川柳がつくられた。

天明(1781~1788)年間には、油屋、備前屋、杉木屋等妓楼70余軒、遊女千数百人を数え、江戸の吉原、京都の島原などととも三大遊郭のひとつになったという。



⑩ 油屋跡

1796年、青年医師孫福斎とおこんをめぐる殺傷事件は歌舞伎の「伊勢音頭恋寝刃(いせおんどこいのねたば)」の舞台となったもので、演劇化され歌舞伎等でたびたび上演されている。

明治になって旅館に転業したが、一時は皇族、貴賓の御宿も一手に賜わるほどの盛況ぶりであった。



⑭ 大五輪(おおごり)

巨大な五輪塔は、昔より各種の名所図絵や文献で紹介される名所のひとつとなっている。

総高3.4m。慶長年間(1600年頃)以前の古塔としては三重県最大と言われる。民家の裏側にあるので、ご配慮を。



⑮ つづら石

お岩稲荷を祀るお岩社があり、元は高さ8尺、横2丈余りの、石の模様がつづら織を思わせる巨岩であった。

現在の岩は移転により小さくなっている。つづら石の前に小祠が建てられ、古来より、「お岩さま」として庶民に崇められている。



⑰ 牛谷坂

江戸時代の1674年に内宮長官藤波氏富によって開修され、その後、宇治年寄が再度改修した。

1805年、古市の妓楼千束屋(ちつかや)「りと」によって大改修がされてほぼ現在の姿になった。



⑱ 伊藤小坡美術館

伊藤小坡は猿田彦神社の宮司の長女として生まれている。

明治28年頃には四条派の流れをくむ伊勢の画家、磯部百麟に師事し、歴史上人物を好んで描いた。

上村松園に次ぐ女性画家として有名である。帝展に数々入選する。



⑲ 宇治惣門跡

参宮街道の牛谷坂と宇治の町並みとの間に設けられ、俗に「黒門」と呼ばれて明治維新までここに番屋があった。



⑳ 猿田彦神社

猿田彦大神の御裔である大田命(おおたのみこと)が祖神。「みちひらき」の神様として多くの参拝者が訪れている。方位除、地祭、土地開発、開業、家業繁栄、交通安全、開運などのご利益があると言われている。

古市参宮街道の歩き方

ルート1

完全踏破プラン

最も古い参宮街道をたどる、外宮を起点にして内宮に至るルートです。古市参宮街道にはトイレが少ないので、まず外宮でトイレを済ませてから出発してください。

昔の旅人になりきった気分を歩いてください。エネルギー消費量はおにぎり1個半です。

ルート2

途中でバスを使うプラン

外宮から「岡本町」バス停まで徒歩、浦田町行バスにて「倭町」で下車。又は宇治山田駅から浦田町行バスに乗り、「倭町」で下車。

ここから古市参宮街道を歩きます。歩き疲れたら「桜木町」バス停からまた浦田町行バスで終点の「浦田町」まで行きます。そこは「おほらい町」の入口です。

☆トイレのご案内



古市参宮街道は旧道のためトイレがほとんどない所です。使えるのは古市テニスコート(12月29日から1月3日までは閉鎖)、古市参宮街道資料館(月曜日・祭日の翌日は閉鎖)、桜木地蔵です。牛谷坂を下れば猿田彦神社のほか、浦田町ロータリー(おほらい町入口)にもあります。